

## 塘研究室現地調査報告 07

7月23日に表磐梯にて現地調査を実施しました。林宏至朗君の調査の第4回目で、塘と黒沢研究室の大学院生・首藤君が同行しました。時々雨に降られましたが無事に調査を終えられました。

池の水面はかなり水生植物で覆われ、タヌキモ、ヒツジグサ、ジュンサイなどの開花が見られました。先月と比べて新たな水生植物種は確認されなかったということで、ほぼすべての種が出そろった感じです。池の周囲の林内にはアオイトトンボとモノサシトンボの数が多く、池内のジュンサイやヒルムシロ類の葉上にはクロイトトンボが多数見られました。池内からは大型ゲンゴロウ類の成虫は姿を消しましたが、ケシ、ヒメケシ、ツブ、コツブなどの小型ゲンゴロウ類の成虫は多かったです。止水性ヒメシロカゲロウ属の未同定種は池内の至る所に夥しい数の若齢幼虫がいましたが、持って帰ったりターから成虫が羽化するなど、発生はまだ続いているようです。



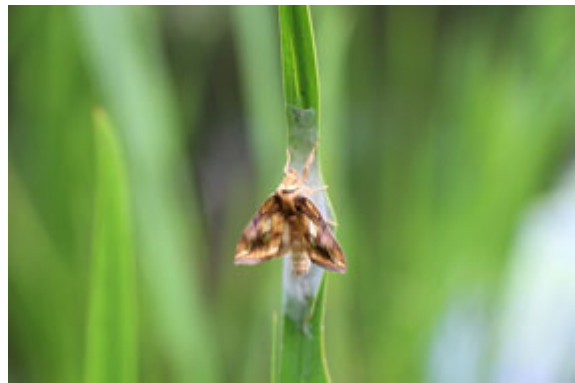
池での底生動物調査



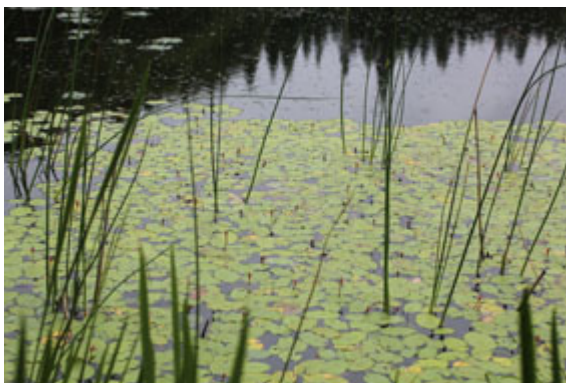
ボートを使用しての水生植物の植生調査



今回最も個体数が多かったアオイトトンボ



イネキンウワバ（湿地性蛾類）の羽化



ジュンサイの花



ヒツジグサの花